



波多利朗の Funky Goods

◎ドライブは3000円!

ATARI Portfolioに ZIPドライブをつなぐ!

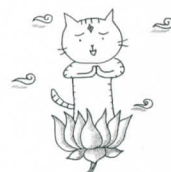


イラスト: Ree(スタジオ・ぶ〜)

夏休みに続いて、秋休み……というわけではないが、勝手に休載させていただいたので、「波多利朗のFunky Goodsは、いよいよもって連載中止か?」というお問い合わせのメールを多数(約2件)頂戴した。申し訳ない。止めたワケではないのだが、いろいろと忙しくてね……。

それはともかく、例によって変なネタが揃ったので、ご紹介しよう。

ドイツのホームページから 「PoFo-ZIP」を入手

ATARI Portfolioといえば、筆者も以前このコーナーでご紹介したことがあるが(98年6月号参照)、1989年に発売されたパームトップパソコンの名機である(写真1)。日本での知名度はとてつもなく低く、おそらく恒常的に使用しているユーザー数は、日本全国でも10名程度ではないかと思っているくらいなのだが、海外、とくにヨーロッパでは絶大なシェアを誇っており、現在でもホームページを介してPortfolio関連のいろいろなグッズを購入することが可能だ。

前回ご紹介したときは、チェコはプラハから内蔵メモリ容量を512KBに拡張改造した基板を取り寄せたが、今回はドイツから、PortfolioにあのZIPドライブを接続するためのソフトウェアを入手した。

ドイツはテニンゲン(Teningen)というところにオフィスを持つStefan Kaecheleという人が、ATARI Portfolio関連のグッズを販売するホームページを開設しており、そこにいろいろと面白い製品が掲載されている(画面1)。URLは、下記のとおりだ。

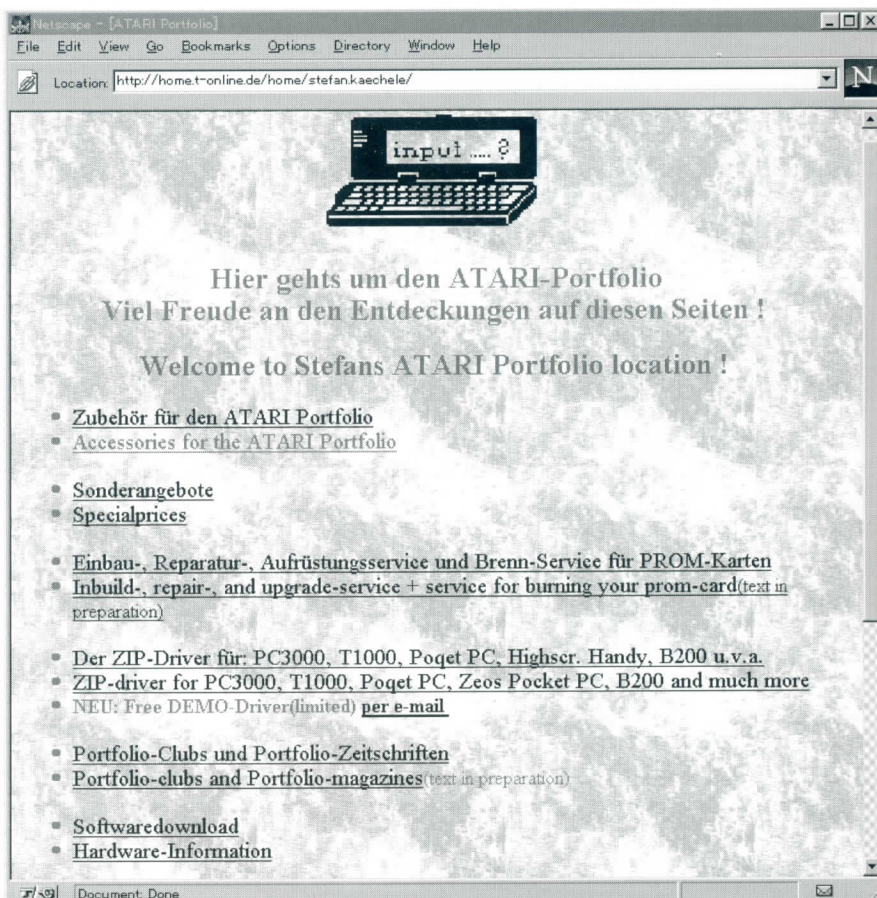
<http://home.t-online.de/home/stefan.kaechele/>

このページ中の「Accessories for the ATARI Portfolio」に、ATARI PortfolioにIomega社のZIPドライブを接続するためのソフトウェア「PoFo-ZIP」が掲載されている。

PoFo-ZIPは、Portfolio BusにSmart Parallel Interfaceを介してZIPドライブを接続することにより、32MB×3パーティションのディスク空間を増設することができるという、かなりすさまじいものだ。「ノーマル状態で、内蔵ディスクメモリが高々128KBしかないPortfolioに、32MB×3個のディスク空間を増設して、どないすんねん?」という、きわめてプリミ



写真1 日本では超マイナーなパームトップ「ATARI Portfolio」



画面1 Stefan Kaechele氏が運営する、ATARI Portfolioのためのページ



タイプな疑問はさて置き、早速トライしてみることにしよう。

ライセンス番号「0040」(!)のPoFo-ZIPをインストールする

PoFo-ZIPのパッケージ内容は、きわめて簡素である。ビニール袋には、ドライブソフトを格納したFDが1枚と、ソフトウェアライセンス規約を記載した文章(それもコピーしたもの)だ、およびドイツ語で書かれた取扱説明書が入っている(写真2)。

今回購入したPoFo-ZIPのライセンス番号は、0040番だった(写真3)。……ということは、40人目のユーザーということである!

PoFo-ZIPのFDには、表1のファイルが格納されている。

●必要ファイルをコピーする

ATARI Portfolioに、PoFo-ZIPドライブソフトをインストールする。

まず、Portfolio本体にPoFo-ZIPドライブをコピーする。その際、Portfolioに拡張メモリカードが実装されていない場合は、本体内蔵のCドライブ上(容量128KB)に

必要ファイルを転送する。

筆者の場合、拡張メモリカードとしてPortfolio純正64KBメモリカードを実装しており(写真4)、Aドライブとして認識されているため、ドライバ類はこのメモリカード上に格納した。こうしておけば、本体電池がなくなってCドライブ上のデータが消失しても、ドライバがなくなってしまうことはない。

Aドライブ上にZIPDRVというディレクトリを作成し、そこへPoFo-ZIPFDに格納されている下記ファイルをコピーする。

```
•pofozip.sys 2148 9-17-97 1:00a
•mkdirfix.com 128 8-14-97 1:00a
•zipman.com 2359 11-25-97 5:59p
```

pofozip.sysはATARI PortfolioにZIPドライブを認識させるためのドライバ本体であり、mkdirfix.comはDIP OSを採用しているATARI Portfolio上で、32MBのディスクドライブ上にディレクトリを作成できるようにする常駐ソフトである。

またzipman.comは、Portfolio上でZIPドライブのフォーマットを行うためのフォーマッタソフトだ。

●ドライバをインストールする

PortfolioのCドライブ上に、下記内容のconfig.sysとautoexe.batをそれぞれ作成する。

«config.sys»

```
device=a:\zipdrv\pofozip.sys /p1 /w1
device=a:\zipdrv\pofozip.sys /p2 /w1
device=a:\zipdrv\pofozip.sys /p3 /w1
```

«autoexe.bat»

```
@echo off
prompt $p$g
path c:\;a:\
a:\zipdrv\mkdirfix.com
```

pofozip.sysのオプションについて説明を加えると、ATARI Portfolioでは100MBのZIPドライブを32MB×3個のパーティションに分割して認識している。/p1~p3は、それぞれのパーティションを示しており、そのあとの/w1は、ZIPドライブをアクセスする際のウェイトのかけ方を設定している。

Portfolioの場合、ウェイト値は1に設定する。

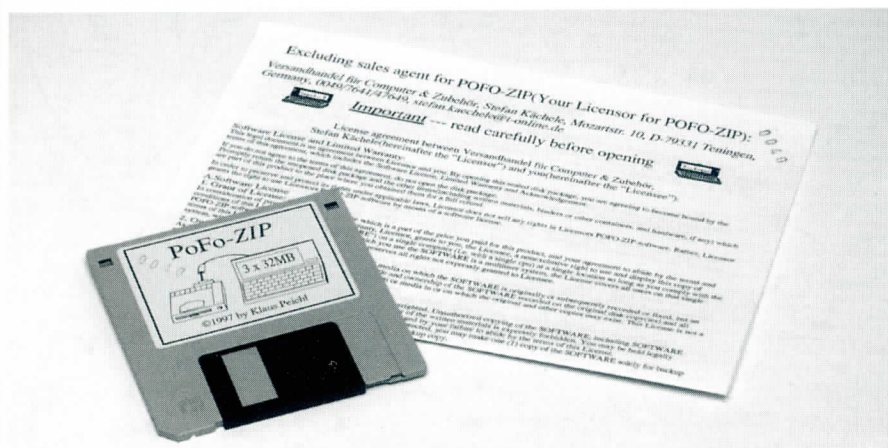


写真2 ビニール袋にFDとマニュアルが突っ込まれている

◎表1 PoFo-ZIPのFDに格納されているファイル

•POFOZIP	SYS	2,148	97-09-17	1:00	POFOZIP.SYS
•MKDIRFIX	COM	128	97-08-14	1:00	MKDIRFIX.COM
•ZIPMAN	COM	2,359	97-11-25	17:59	ZIPMAN.COM
•POFOZIP	TXT	7,102	97-09-17	1:00	POFOZIP.TXT
•ZIPMAN	TXT	11,618	98-01-10	10:00	ZIPMAN.TXT
•MDEXTERN	COM	452	97-11-04	0:00	MDEXTERN.COM
•ZIPCOPY	COM	2,255	97-12-09	22:48	ZIPCOPY.COM
•MDEXTERN	TXT	2,712	97-11-04	0:00	MDEXTERN.TXT

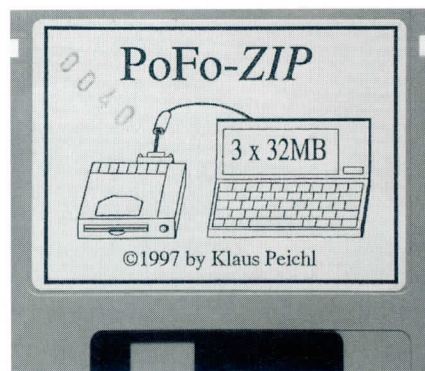


写真3 PoFo-ZIPのFDに打たれたライセンス番号(左上方)。筆者が40人目のユーザー?

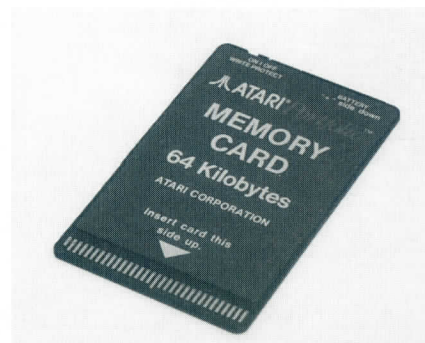


写真4 Portfolio純正64KBメモリカード。カードの様子はPortfolio独自規格である

● ZIP ドライブを接続する

ATARI Portfolio 本体に、ZIP ドライブを接続する(写真5)。

まず、Portfolio Bus(写真6)に Smart Parallel Interface(Model HPC-101)(写真7)を接続し、ZIP ドライブの電源を入れてから Portfolio をリセットする。

すると、下記メッセージが出力され、ZIP ドライブが認識される。ちなみに、メッセージ出力はドイツ語だ。

PoFoZip Version 1.00, Lizenz Nr. 0040
(c) 1997 Klaus Peichl & Stefan Kaechele
MKDIRFIX 1.00 aktiviert.

● ZIP ドライブをフォーマットする

ZIP ドライブがシステムから認識されたので、次に ZIP メディアのフォーマット



写真5 Portfolio Bus 経由で、ZIP ドライブを接続する



写真6 Portfolio の外部/Oコネクタ、Portfolio Bus



写真7 Smart Parallel Interface(Model HPC-101)のパッケージ内容

ティングを行う。

ZIP ドライブにメディアを入れてから a:¥zipdrv に移動し、zipman.com を起動させる。すると、フォーマッタソフトのメニュー画面が出力される。

ZIPMAN 1.22 (c) 1997 by Klaus Peichl

```
-----
Select  Volume  <P>art  <W>ait
*        <D>      1       0002
          <E>      2       0002
          <F>      3       0002
```

<2> = Formatierung FAT12 (fur DOS 2.X)

<Esc> = Ende

ここで、フォーマットを行いたいドライブ名を入力すると、「*」印がそのドライブへ移動する。上記の例では D ドライブが選択されているが、この状態で Enter キーを押すと「*」印が <E> に移動し、E ドライブが選択された状態となる。

フォーマットを行うには「2」キーを押すが、フォーマットを行うと(当然である)それまでメディア内に保存されていたデータがすべて消去されてしまう。

Formatierung der Partition 1 folgt.
Alle Dateien dieser Partition gehen
verloren!Ä@ (ALL DATA WILL BE LOST)

<ESC> = Abbruch <ENTER> = OK

ここで Enter キーを押すと、フォーマットが開始される。フォーマットが終了するとメインメニューに戻るので、続いて他のドライブをフォーマットする。

D、E、F 各ドライブのフォーマットが終了したら、zipman.com を終了する。

● 各パーティションを確認する

ZIP ドライブの各パーティションが正

常に認識しているかどうかを確認する。

chkdsk を実行すると、下記のように表示されるはずだ。

```
Vol partition_1 created 9-15-98 18:30
33406976 bytes total disk capacity
      0 bytes in 1 hidden files
33406976 bytes available on disk
126976 bytes total memory
  89984 bytes free
```

mkdir コマンドで各ドライブに正常にディレクトリが生成され、ファイルがコピーできることを確認すれば、作業は終了である。

▶ 広大なディスク空間を確保したがつて、その用途はいかに？

ZIP ドライブと PoFo-ZIP を使用すれば、標準で 128KB しか内蔵されていない Portfolio のディスク空間を 32MB × 3 にまで拡張することができる。しかし、いったいなにに使えばよいのだろうか？ 内蔵メモリのバックアップだけではもったいない。

ATARI Portfolio 対応のゲームは星の数ほど出ているから、Web 上を探し回ってこうしたゲームソフトをダウンロードし、コレクションするのもいいかもしれない。ZIP メディア 1 枚で合計 96MB のディスク空間が確保できれば、それこそ一生遊べるくらいのゲームソフトが蓄積できるはずだ。

今回ご紹介したものの以外にも、ATARI Portfolio 用の周辺グッズにはまだまだいろいろな種類がある(写真8)。

こうしたグッズを見ていると、ヨーロッパを中心として Portfolio ユーザーが多数存在していることを実感できる。

ちなみに、今回購入した PoFo-ZIP ドライバソフトの価格は 3000 円弱だった。

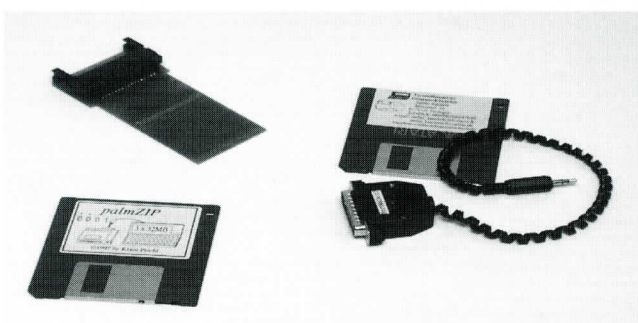


写真8 ATARI Portfolio 用の怪しいグッズの数々

IC、LSI 全盛の世にあって 設計者のこだわりを感じる 真空管ラジオキットを発見

先日、書店でアクションバンド電波8月号別冊『保存版電子工作キット回路図全集』(発売:マガジンランド社)(写真a)という本を購入した。電子工作キットといえば秋葉原は秋月電子通商のキットが有名だが、この本には、そのようなキットの回路図とパーツリストが多数掲載されている。



写真a 電子工作キットマニア必見の『保存版電子工作キット回路図全集』

学生の頃から周波数カウンタやワンボードマイコン、ラジオ、パワーアンプなどのキットを作成してきた筆者としては、これは見逃すわけにはいかない。

早速チェックしてみると、サトー電気というところから、なんと真空管を使用したラジオキットが発売されているではないか。これには驚いた。

掲載されている真空管ラジオキットは、下記のとおり11種類にも上る。

- ・6C4単球再生ラジオ 4300円
- ・6BE6+6BD6+6AV6+6AR5 4級スーパーラジオ 2万2000円
- ・5678高周波増幅装置付き2級再生ラジオ 5360円
- ・76単球再生ラジオ 7500円
- ・5678変わり種2級再生ラジオ 570円
- ・5678再生2バンド3級ラジオ 6370円
- ・5678フレックス2級ラジオ 5900円
- ・5678単球再生ラジオ 3720円
- ・5678再生2級ポータブルラジオ4700円
- ・6AU6再生単球ラジオ 6000円

・6AU6+6AS5再生2級ラジオ 9000円
筆者は真空管大好き人間であり、いまでもにも頼まれもしないのに本誌上で真空管ラジオキットを紹介してきたという前科がある。今回も、いくつか購入したものを勝手にご紹介する。

●6C4単球再生ラジオ

3極MT管6C4を使用した、1球の再生式ラジオキットである(写真b)。トランスレス方式を使用し、小型にまとめているのが特徴だ。

真空管6C4には、GENERAL ELECTRIC 製品(1981年製造)が用いられている。

●5678変わり種2球再生ラジオ

サブミニチュア管5678を2個使用した再生ラジオキットである(写真c)。5678は直熱型真空管であり、カソードを加熱する必要がないため、音の出るまでの時間がきわめて短いのが特徴だ。

変わり種と銘打っているのは、同調コイルと再生コイルにループアンテナを使用していることと、電源に006P電池を4個直列に使い、36V電源をつくっている点にある。

5678真空管には、RAYTHEON MFG COMPANY 製品(1951年製造)が用いられている。



写真b 3極MT管6C4を使用した単球再生ラジオキットの内容



写真c サブミニチュア管5678を使用した2球再生ラジオキットの内容

●76単球再生ラジオ

いまだきなんと珍しいST管「UY-76」を使用した単球再生ラジオキットである(写真d)。

筆者もラジオキットを製作していた頃に使用した経験があるが、秋葉の真空管屋でもめったに見かけない。ウワサによると、1本2000~3000円程度もするというのだ。

このキットには、アメリカTUNG-SOL社の中古の76が使用されている。これもやはり同調コイルに大型のループアンテナを採用して、特色を出している。

●6AU6+6AS5再生2級ラジオ

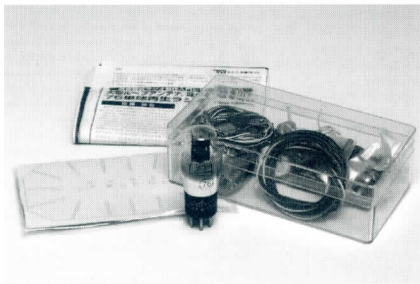
AC電源を使用した2球再生式ラジオである(写真e)。電源トランスはヒーター用の6.3Vのみとなっており、B電源としては、100Vを直接整流して130~140Vを得る簡易電源を用いている。

6AU6はRCA製品を、また6AS5はCBS製品を使用している。

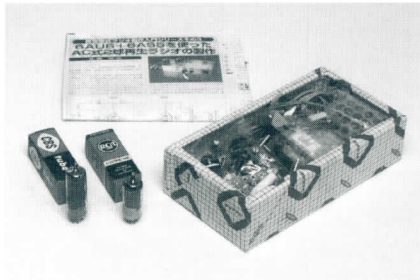
*

いずれの製品も凝った回路構成となっており、設計者のこだわりを感じさせる。

IC、LSI全盛の世にあって、これだけの種類のユニークな真空管ラジオキットを、いまだに購入できるということは感動モノだ。この手の世界にのめりこんでいる諸兄は、一度挑戦されてはいかがだろうか?



写真d 珍しい76を使用した単球再生ラジオキットの内容



写真e AC電源を使用した2球再生ラジオキットの内容